

田原 昌子

教授

研 究 業 績

2020年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著 書（共）	「音楽表現指導における一考察～幼児のためのリトミック指導～」『子ども教育への試論』日本文教出版、編著者：伊達民和、大角洋子、著者：伊達民和、大角洋子、安部恵子、廣木義久、第VI編 107～121 頁	2006. 11
著 書（共）	「幼児一人一人の感性と表現を育む指導力の養成」『ユニバーサルデザインへの挑戦』東洋館出版社『教育マイスター研究会』著者：松久眞実、田原昌子、磯島秀樹、山本景一、安井茂喜、八木利律子、第2章 25～48 頁	2018. 1
著 書（共）	『幼児教育・初等教育の「音楽表現」指導力養成—保育士・幼稚園教諭・小学校教諭を目指す人のために—』和泉出版、編著者：田原昌子、著者：田原昌子、児玉達郎、山田真由美、鈴木亜希子、1～132 頁	2018. 2
著 書（共）	「フィンランドと日本の音楽科教育の動向—ナショナル・コア・カリキュラムと学習指導要領の改訂を受けて—」『評価を見据えた学習デザイン—子どもの主体性と学びを核として—』和泉出版、編著者：石原陽子、著者：石原陽子、安井茂喜、田原昌子、福岡和歌子、青木寛典、杉本亜喜子、宇田津勇輔、井坂直貴、堤啓祐、第4章 43～63頁	2018. 3
著 書（共）	「横断的・縦断的な学びを見据えた領域「表現（音楽）」の指導力」『教壇に立つ前に読んでほしい本』東洋館出版社、『桃山学院教育大学若手教員を育てる会』編著：桃山学院教育大学若手教員を育てる会、著者：松久眞実、田原昌子、西川恭一、今宮信吾、山本景一、梶井大輔、山口聖代、DECKER Warren、小野功一朗、宋知潤、CCHAPTER2 21～35頁	2020. 2
論 文（単）	「ピアノ演奏時の筋緊張に関する実験的一考察（その1）」『音楽教育論叢第1号』関西音楽教育研究会、39～48 頁	1983. 4
論 文（単）	「ピアノ演奏時の筋緊張に関する実験的一考察（その2）」『関西楽理研究 Ⅲ』関西楽理研究会、47～59 頁	1986. 9
論 文（単）	「フィンランドの音楽教育Ⅱ—小学校音楽科教材に関する考察 1」プール学院大学研究紀要 第51号、173～188 頁	2011. 3
論 文（単）	「フィンランドの音楽教育Ⅱ—小学校音楽科教材に関する考察 2—」プール学院大学研究紀要 第52号、147～161 頁	2012. 12

論文(単)	「わが国の音楽科教育法に関する研究—フィンランドに学ぶ音楽教育法 1—」プール学院大学研究紀要 第 53 号、57～71 頁	2013. 3
論文(単)	「わが国の音楽科教育法に関する研究Ⅱ—「聴く耳」を育む音楽科教育法—」プール学院大学研究紀要 第 53 号、73～87 頁	2013. 3
論文(単)	「フィンランドの音楽教育Ⅱ—小学校音楽科教材に関する考察 3—」プール学院大学研究紀要 第 54 号、47～62 頁	2013. 12
論文(単)	「子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅰ—初級者を対象としたピアノ伴奏力養成について—」プール学院大学研究紀要 第 55 号、123～137 頁	2014. 12
論文(単)	「子どもの表現のためのピアノ伴奏法Ⅱ—子どもの感性を育むピアノ伴奏力養成について—」プール学院大学研究紀要 第 56 号、153～168 頁	2016. 2
論文(単)	「学童期を見越した幼児期の音楽表現指導法に関する—考察—幼児教育と小学校教育の接続・連携を目指して—」プール学院大学研究紀要 第 57 号、227～241 頁	2017. 1
論文(単)	「小学校低学年音楽科教育の新しい動向を探る—フィンランドのナショナル・コア・カリキュラム改革を参照して—」プール学院大学研究紀要 第 58 号、113～127 頁	2018. 2
論文(共)	「日本の教員養成大学の学生に日本音楽はどのように受け取られているか」『関西楽理研究 VI』関西楽理研究会、奥忍、45～56 頁	1989. 9
論文(共)	「幼児の歌の弾き歌いに関する—考察—豊かな感性を育むピアノ伴奏を求めて—」プール学院大学教育学部研究紀要 第 1 号、山田真由美、39～55 頁	2017. 3
その他(単)	「小学校音楽科におけるリズム指導—身近にあるものを使って—」プール学院大学研究紀要 第 48 号、145～157 頁	2008. 12
その他(単)	「フィンランドの音楽教育Ⅰ—日本フィンランド学校での指導とフィンランドの小学校音楽科授業視察を事例として—」プール学院大学研究紀要 第 49 号、299～310 頁	2009. 12
口頭発表(単)	「ピアノ学習に関する実験的—考察—筋緊張の分析を中心に—」日本音楽学会 第 162 回関西支部例会、大阪市	1983. 5
口頭発表(単)	「ピアノ学習に関する実験的—考察—筋緊張の分析を中心に—」関西楽理研究会 第 35 回例会、京都市	1983. 6
口頭発表(単)	「ラフマニノフ：ピアノソナタ 2 番 Op. 36 ～楽曲分析～」関西楽理研究会 第 38 回例会、京都市	1984. 5
口頭発表(単)	「ピアノ奏法に関する先行の諸研究」関西楽理研究会 第 44	1985. 9

	回例会、京都市	
口頭発表(単)	「ピアノ演奏時の筋緊張に関する実験的考察(その2)～脱力演奏へのアプローチ～」関西楽理研究会 第45回例会、京都市	1985. 12
口頭発表(単)	「ショパン：ノクターン Op.62—1～テンボルバートにおける音響学的考察～」関西楽理研究会 第55回例会、京都市	1988. 7
口頭発表(単)	「北欧のピアノ曲～バルムグレンとグリーグを中心に～」関西楽理研究会 第60回例会、京都市	1989. 9
口頭発表(単)	「日本のピアノ教育について」シベリウスアカデミー夏期マスターコース、フィンランド	1997. 6
口頭発表(単)	「導入期のピアノ指導～リトミックのピアノ指導への展開～」シベリウスアカデミー夏期マスターコース、フィンランド	1999. 6
口頭発表(単)	「日本のピアノ教育について」ヨエンスーコンサルヴァトワール、フィンランド ヨエンスー	2004. 5
